

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 金 2	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間と文化 (哲学入門) Humanity and Culture (Introduction to Philosophy)		
対象年次 1・2 年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員: ファーデン・ゲアハルト / Eメールアドレス: g-faden@net.nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 環境科学部一階 / オフィスアワー: 講義の前後			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい: 哲学は大変難しく、実際生活から離れた学問とされていますが、実は哲学をやらない人はいません。つまり、人間は誰でも自分の魂、自分の生きるべき方法、存在の本質などについて何らかの概念を持っています。この講義では、この概念について考察します。</p> <p>授業方法: プリント資料に基づいて哲学の基礎問題を学習します。</p> <p>授業到達目標: 学生が形而上学の意味、心身の問題、哲学と科学、宗教と科学の関係について説明できることを狙っています。</p>			
<p>授業内容(概要) 哲学の主要問題を論じます。</p> <p>第1回～第2回 哲学の根源と本質について。広義の哲学と狭義の哲学。理論(theoria)の本来の意味。哲学には進歩があるかについて。</p> <p>第3回～第4回 形而上学の基本概念: 魂、自由、存在、神について。</p> <p>第5回 相対主義、実用主義、実証主義、不可知論とその批判。現象学の方法(本質直観)について。</p> <p>第6回～第7回 心身の問題 I: 脳研究と哲学。人間精神は脳の附随現象か自立した存在かについて。</p> <p>第8回～第9回 心身の問題 II: 形而上学に基づく説(Platon, Leibniz)と唯物論に基づく説。</p> <p>第10回～第11回 進化論。ダーウィン主義(ネオ・ダーウィニズム)と自然哲学。生命と意識の根源問題。生物は偶然か知性的計画の産物かについて。宗教と科学の関係(Galilei, Darwin, Freud)。</p> <p>第12回～第13回 人間の特徴は何であるかについて。精神と衝動。形而上学に基づく人間観(Scheler)と生物学に基づく人間観(Monod, Lorenz)</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 定期試験</p>			
キーワード			
教材・参考書	M.シェーラー (Scheler)、宇宙における人間の地位。 カール・ポパー (Popper) & ジョン・C. エクルズ (Eccles)、自我と能。 プリント資料。		
成績評価の方法・基準等	定期試験 (80%)、授業への積極的参加状況、授業に対する態度 (20%)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			